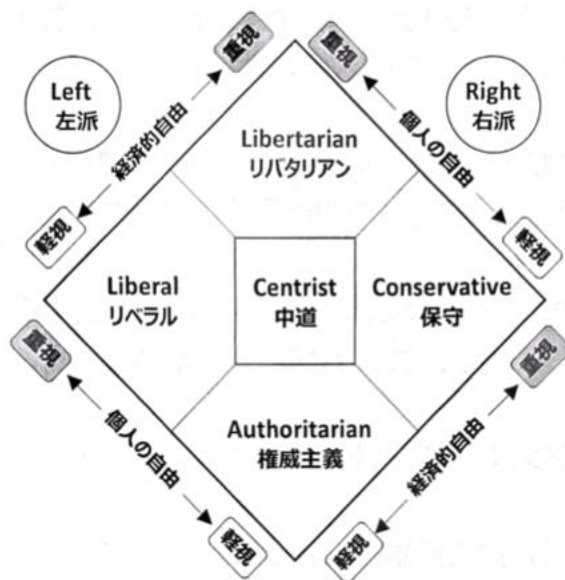


米社会の動向とバイデン政権の展望

(慶應義塾大学・渡辺靖)

1) 米政治の座標図

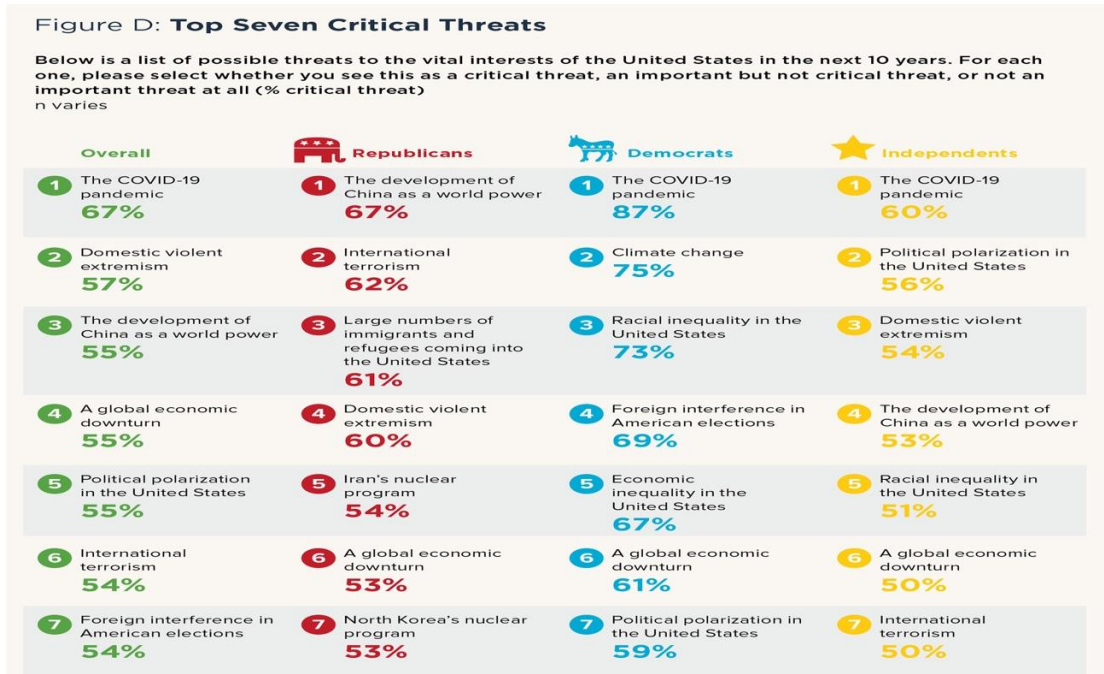


出所：『リベタリアニズム』中公新書（2019年）

2) 近年の特徴

- ・「保守」の「権威主義」化（＝共和党のトランプ化）
- ・「リベラル」（＝民主党左派）の影響力増加
- ・「中道」の信用低下（＝反エリート＝ポピュリズム）
- ・強まる遠心力（＝分断の深化）

3) 分断の余波



Source: Chicago Council on Global Affairs (September 17, 2020)

4) バイデン政権の一年

- ・ フォード + FDR → カーター？
- ・ コロナ対策、経済再建 → オミクロン株、インフレ上昇 → 無党派層の失望
- ・ アフガン撤退 → ロシア、中国、イラン、北朝鮮
- ・ 党内対立の顕在化（リベラル vs 中道）・・・ BBB 法案、フィリバスター撤廃
- ・ 成果・・・ 景気回復、失業率低下、インフラ投資法案、対中政策（QUAD、AUKUS）
- ・ 支持率低下（56% → 42%）

5) 中間選挙（11月8日）の注目点

- ・ 争点・・・ 人工妊娠中絶、投票権法改革、批判的人種理論（CRT）・・・ 「共和党」
- ・ トランプ劇場第二幕？・・・ 外交的影響